# さいたま国際芸術祭実行委員会
# 第　５　回　総　会

## 次　第

日 時：令和５年３月 15 日(水)16 時 00 分～
会 場：ときわ会館５階　大ホール

１　　開　　会

２　　議　　事

（１）報告第１号　令和４年度事業実施状況について

（２）報告第２号　令和４年度収入支出決算見込みについて

（３）議案第１号　令和５年度事業計画(案)について

（４）議案第２号　令和５年度収入支出予算(案)について

３　　そ の 他

（１）第６回総会の開催について

４　　閉　　会

報告第１号

# 「さいたま国際芸術祭２０２３」令和４年度事業実施状況

## Ⅰ．概況

令和５年１０月の芸術祭開幕に向け、令和４年８月に広報戦略を含む開催実施計画を策定しました。

開催実施計画策定後には、芸術祭閉幕までを見据えた補正予算及び債務負担行為設定について、令和４年１０月の実行委員会総会で承認されたことから、芸術祭開幕に向けた本格的な準備に着手しました。

## Ⅱ．実行委員会

### １　実行委員会

（１）実行委員会総会の開催

実行委員会総会を開催し、開催計画や事業費などについて審議・決定いたしました。

**≪実行委員会総会≫**

●第３回総会：８月２６日（金）　会場：さいたま市文化センター多目的ホール
　議題：令和３年度決算、開催実施計画について

●第４回総会：１０月２７日（木）会場：さいたま市文化センター多目的ホール
　議題：令和４年度事業計画、令和４年度収入支出補正予算について

●第５回総会：３月１５日（水）　会場：ときわ会館大ホール※今回審議、決定。
　議題：令和５年度事業計画、令和５年度収入支出予算について

（２）実行委員会委員からの意見聴取

開催実施計画の策定にあたり、芸術祭の広報ＰＲや運営体制について御協力いただけることや開催計画に盛込むべき点などについて、実行委員会委員の皆さまに対する意見聴取を実施しました。

調査期間：令和４年５月２日から５月23日
[主な協力事項]
●展示会場の提供や連携事業の展開
●ウェブサイトやＳＮＳを活用した広報・ＰＲ、チラシの配架やポスター等の掲出　など

## Ⅲ．開催実施計画の策定

芸術祭の基本的な展開方針や広報戦略を定め、開催テーマを「わたしたち」、愛称を「Art Saitama2023」とする「さいたま国際芸術祭２０２３開催実施計画」を令和４年８月に策定しました。

**≪開催概要≫**

名　　称：さいたま国際芸術祭２０２３

テ ー マ：「わたしたち」

目　　的：（１）「さいたま文化」の創造・発信
（２）さいたま文化を支える「人材」の育成
（３）さいたま文化を活かした「まち」の活性化

会　　期：２０２３年１０月７日（土）～１２月１０日（日）［６５日間（予定）］

事業展開：（１）アートプロジェクト
（２）市民プロジェクト
（３）連携プロジェクト

会　　場：メイン会場　旧市民会館おおみや
その他会場　RaiBoC Hall(市民会館おおみや)、大宮盆栽美術館、漫画会館、岩槻人形博物館、鉄道博物館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館、さいたま市文化センター、その他市内各所

主　　催：さいたま国際芸術祭実行委員会

プロデューサー：芹沢高志（P3 art and environment 統括ディレクター）

ディレクター：現代アートチーム目［mé］

市民プロジェクトキュレーター：松永康、浅見俊哉、飯島浩二

デ ザ イ ナ ー：高田唯(Allright Graphics)

ロゴデザイン・ロゴタイプ：

最小単位の「ドット」をロゴ化。
固定されたロゴではなく、随時変化／変容するロゴ

ロゴパターン（例）

## Ⅳ．各種事業の準備・実施状況

### 1　アートプロジェクト関係

（１）企画・構成及び制作管理

アートプロジェクトの企画構成や制作管理、事務局支援業務について、複数年度にわたり行う業務として公募型プロポーザル方式により業者選定を実施し、契約を締結しました。

≪アーティスト選定について≫
・芸術祭、ディレクターが掲げる方針や、テーマ・会場構成に深く関わりうるアーティスト
・市民と協働しながら作品を制作するアーティスト

＜招聘ジャンル等（予定）＞
・現代美術
・コンテンポラリーダンス
・演劇
・音楽
・映像（映画含む）
・市民団体による演目等　他

### 2　市民プロジェクト関係

（１）市民プロジェクト企画・構成、制作管理等及び実行委員会事務局の支援

「創発 in さいたま」、「さいたまアーツセンタープロジェクト 2023＊（SACP2023＊）」、「アーツさいたま・きたまち」等の企画構成や実施体制の構築を進めるとともに、展開プログラムや本市にゆかりのある参加アーティスト、会場使用等の調整に着手しました。

（２）公募プログラムの募集

芸術祭の開催趣旨及びテーマを踏まえ、市内においてあらゆる人に文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちの創出につながる事業(プロジェクト)を公募及び審査し、採択事業に対して、事業費の全額または一部を交付する「公募プログラム」を募集しました。

≪内容≫
（１）採択事業内での、さいたま国際芸術祭２０２３
「市民プロジェクト・ロゴ」の使用許可
（２）採択事業への事業費の交付
（ 事業費のコース A：１０万円／B：３０～５０万円
／C：１００～３００万円 ）
（３）採択事業の広報活動の協力
（ 例：公式 WEB サイト・SNS・市報さいたま等への掲載 ）
募集期間：令和５年２月７日（火）～令和５年３月７日（火）
応募に関する説明会：令和５年２月 10 日（金）、令和５年２月 18 日（土）の２回説明会を開催し、51 名が参加した。
（４）申込件数 54 件（R5.3.14 現在）

（３）応援プロジェクトの募集開始

芸術祭の開催趣旨に賛同し、かつ芸術祭のテーマを踏まえた様々な事業との相互広報協力を行う「応援プロジェクト」の募集を開始しました。

≪内容≫

（1）応援プロジェクト認証事業での「応援プロジェクトタグ付きロゴ」の使用許可

（2）広報活動の協力（例：公式ウェブサイト・SNS 掲載、市内文化施設へのチラシ配布　等）

（3）募集期間：令和５年２月１日（水）～令和５年 11 月 30 日（木）

（4）認証件数　４件（R5.3.14 現在）

Art Saitama 2023

We support Art Saitama 2023

## 3　連携プロジェクト関係

事業の企画の調整

●文化施設連携事業

大宮盆栽美術館、漫画会館、岩槻人形博物館、鉄道博物館など、市内に所在する地域の特色ある文化施設との間で芸術祭の開催趣旨に沿った企画展との連携などの各施設の特色ある事業の実施について調整を行いました。

●まちなか活性化事業

芸術祭の開催期間中に文化芸術を活かしたまちの活性化に寄与する事業として、開催エリア周辺の商店街や実行委員会構成員などとの連携や浦和画家を紹介する展覧会等の実施に向けた調整を実施しました。

●庁内連携事業

「文化芸術の創造力による活力のあふれたまち」の実現のため、芸術祭の開催時期に実施される区制 20 周年記念事業などのさいたま市主催による各種イベントとの連携に向けた庁内関係課や教育委員会との調整を実施しました。

**≪教育委員会（小学校・中学校校長会で説明した具体的な取組内容）≫**

●児童・生徒用に配布されている一人一台端末におけるさいたま国際芸術祭２０２３情報の配信について

文化芸術の鑑賞機会を提供し文化芸術教育の推進に寄与するため、ＧＩＧＡスクール構想により児童又は生徒の所有するタブレットにより、ディレクターからのメッセージや国際芸術祭に関する動画や画像、参加可能なプログラムの募集等の情報を配信していきます。

●さいたまアーツセンタープロジェクト２０２３＊アウトリーチプログラムの実施について

アーティストが小学校を訪問し、図工や美術、部活動などの時間を利用し、アーティストと共に文化芸術活動をとおし作品をつくりあげる事業です。今後、小学校と調整し、事業を展開していきます。

●さいたま国際芸術祭２０２３アートプロジェクトにおける市民団体の募集について

芸術祭のプログラムとして演目発表する部活動等の団体を募集します。参加団体は、ディレクターが考案する芸術祭テーマや展示会場のコンセプトに参加することで普段とは違った発表を行い、共に芸術祭をつくっていきます。今後、全体の出演日程が決まり次第、募集を開始します。

●さいたま国際芸術祭２０２３中高生サポーターについて

希望する生徒を対象に、アーティストとの交流や会場運営等のボランティア活動によって芸術祭に参加する機会を提供します。今後、教育委員会や学校と調整し、事業を展開していきます。

## 4　その他（関連事業）

市民サポーター事業

令和４年度４月より、毎月（8 月を除く、8 月分は 9 月 2 日に実施）サポーターミーティングを開催し、芸術祭プロデューサー・ディレクターとの意見交換やサポーターからの提案の場等を提供することにより、芸術祭に主体的に参加するサポーターの交流・育成を行いました。

≪内容≫

（1）サポーターミーティング実施（予定）日程

令和 4 年 4 月 22 日（金）、令和 4 年 5 月 20 日（金）、令和 4 年 6 月 17 日（金）、令和 4 年 7 月 22 日（金）、令和 4 年 9 月 2 日（金）、令和 4 年 9 月 30 日（金）、令和 4 年 10 月 21 日（金）、令和 4 年 11 月 18 日（金）、令和 4 年 12 月 23 日（金）、令和 5 年 1 月 20 日（金）、令和 5 年 2 月 17 日（金）、令和 5 年 3 月 24 日（金）※予定

（2）主な内容

芸術祭プロデューサー・ディレクターとの意見交換（4 月 22 日）、芸術祭ディレクターとの意見交換（9 月 30 日）を行うとともに、芸術祭アートプロジェクトのコーディネーターから依頼を受け、アートプロジェクトの進め方について、サポーターから意見聴取する場（2 月 17 日）を設定した。

# Ⅴ　広報・ＰＲ活動

## 1　広報・ＰＲ

（1）ウェブサイト

≪ティザーサイト（事前情報サイト）の開設≫

芸術祭の始動を発信するため、令和５年１月にティザーサイト（事前情報サイト）を開設し、芸術祭の概要や新着情報を発信するページを設置しました。

※サイト用画像

ディレクター目［mé］が撮影したさいたま市内の風景

【ティザーサイト URL】

https://artsaitama.jp/

《QR コード》

≪公式ウェブサイトの設計・開発≫

7月実施予定の記者発表会に合わせて開設する公式ウェブサイトの設計・開発に着手しました。

≪設計・開発のポイント≫
●本芸術祭のテーマに合わせた統一感のあるサイトデザインで構成する。
●日本語、英語の2言語に切り替える機能を搭載し、国内外の来場者への情報発信が可能とする。
●スマートフォンを中心に様々なデジタルデバイスに対応できるレスポンシブデザインを採用する。
●ウェブサイトから外部SNSへ拡散していく仕組みを取り入れ、SNSと連動させる。
●会場チケットが購入できるページを設置し、チケット販売の窓口として効果的に機能させる。

（2）プレスリリース

ディレクターの委嘱、テーマ・ロゴデザインの決定など、芸術祭の開催準備にあたりトピックスをプレスリリースすることにより情報発信を行いました。

≪月別プレスリリースの内容≫(R5.2.28時点)

| 年月 | 内容 |
|---|---|
| R4年5月 | ・委嘱状交付式を行いました[R4.5.6] |
| R4年8月 | ・実行委員会第3回総会を開催します[R4.8.19] |
| R4年8月 | ・テーマ・ロゴデザインを決定しました[R4.8.29] |
| R4年10月 | ・実行委員会第4回総会を開催します[R4.10.20] |
| R5年1月 | ・公式ティザーサイトを公開しました[R5.1.31] |
| R5年2月 | ・応援プロジェクトを募集します[R5.2.1] |
| R5年2月 | ・公募プログラムを募集します[R5.2.2] |

（3）パブリシティ実績

令和4年4月1日から令和5年2月28日までの間に、新聞・雑誌・テレビ・ウェブなどの各種メディアで情報が発信され、167件の掲載・放送がありました。

≪媒体別報道・掲載件数≫(R5.2.28時点)

| 種別 | 報道・掲載件数 | 詳細 |
|---|---|---|
| 新聞･雑誌･刊行物 | 17件 | さいたま市報1月号、埼玉新聞　など |
| ウェブサイト | 145件 | Casa BRUTUS　など |
| テレビ・ラジオ | 5件 | NHK NEWS おはよう日本　など |
| 計 | 167件 | |

＊事務局で、掲載・放送が確認できたもののみ掲載

（４）その他

プロデューサー・芹沢高志氏やディレクター・現代アートチーム目［mé］が各種イベント等に登壇し、「さいたま国際芸術祭２０２３」の情報発信を行いました。

| 年月 | 主な実績・内容 |
|---|---|
| R4 年 6 月 | 名称：デザインフォーラムイベント・２０２２未来デザインネクストで講演<br>主催：福岡デザイン専門学校<br>登壇者：芹沢高志氏　場所：福岡市科学館サイエンスホール<br>さいたま国際芸術祭２０２３のアピール[R4.6.10] |
| R5 年 1 月 | 名称：MEET YOUR ART<br>出演者：芹沢高志氏　場所：月島スタジオ<br>『【アート講座】数々の芸術祭・総合ディレクターを務める芹沢高志さん『アートで地域を巻き込む』【解説・アートプロジェクト】』　YOUTUBE 公開［R5.1.13］ |
| R5 年 1 月 | 名称：大阪芸術大学での特別授業（さいたま国際芸術祭の概要紹介）［R5.1.20］<br>講師：目[mé]　場所：大阪芸術大学<br>特別授業（さいたま国際芸術祭の概要紹介）［R5.1.20］ |
| R5 年 1 月 | 名称：アーツ千代田 3331　十二周年セレモニー<br>登壇者：芹沢高志氏　場所：3331 Arts Chiyoda<br>アート関係者への広報［R5.1.30］ |

## Ⅵ　開催会場の使用調整

会場となる旧市民会館おおみやや大宮図書館などを中心に、会場整備の対応や維持管理をはじめとする使用調整を行いました。

**報告第２号**

# さいたま国際芸術祭実行委員会令和４年度収入支出決算見込

**【収入の部】令和４年度**　（単位：円）

| 区　分 | 当初<br>予算額<br>(A) | 補正<br>予算額<br>(B) | 最終予算<br>現額<br>(C)<br>((A)+(B)) | 収入額<br>(見込)<br>(D) | 過不足額<br>(見込)<br>(D)-(C) | 説　明 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| さいたま市<br>負担金 | 40,079,000 | 87,193,000 | 127,272,000 | 127,272,000 | 0 | |
| その他<br>雑入 | 1,000 | 0 | 1,000 | 253 | △747 | ○受取利息 |
| 合　計 | 40,080,000 | 87,193,000 | 127,273,000 | 127,272,253 | △747 | |

**【支出の部】令和４年度**　（単位：円）

| 区　分 | 当初<br>予算額<br>(A) | 補正<br>予算額<br>(B) | 最終予算<br>現額<br>(C)<br>((A)+(B)) | 決算額<br>(見込)<br>(D) | 不用額<br>(見込)<br>(D)-(C) | 説　明 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事　業<br>企画費 | 29,941,000 | 84,008,000 | 113,949,000 | 113,479,000 | 470,000 | 当初予算分<br>○開催計画策定支援　など<br><br>補正予算分<br>○アートプロジェクトの企画・構成に係る経費<br>○市民プロジェクトの企画・構成に係る経費<br>○会場整備に係る経費　など |
| 広　報<br>関係費 | 9,583,000 | 2,425,000 | 12,008,000 | 11,995,000 | 13,000 | 当初予算分<br>○広報戦略策定支援<br>○ティザーサイト制作費<br><br>補正予算分<br>○パブリシティ・プロモーション活動に係る経費　など |
| 委員会<br>運営費 | 55,000 | 10,000 | 65,000 | 55,000 | 10,000 | ○実行委員会総会の開催に伴う会場使用料及び委員旅費 |
| 事務局<br>運営費 | 501,000 | 750,000 | 1,251,000 | 1,250,000 | 1,000 | ○事務局運営に係る通信運搬費及び消耗品費　など |
| 合　計 | 40,080,000 | 87,193,000 | 127,273,000 | 126,779,000 | 494,000 | |

＊R5.3.3時点

議案第１号

# さいたま国際芸術祭実行委員会　令和５年度　事業計画(案)

## Ⅰ．さいたま国際芸術祭２０２３の開催

### 基本情報

≪開催概要≫
名　　称：さいたま国際芸術祭２０２３
テ ー マ：「わたしたち」
目　　的：（１）「さいたま文化」の創造・発信
（２）さいたま文化を支える「人材」の育成
（３）さいたま文化を活かした「まち」の活性化
会　　期：２０２３年１０月７日（土）～１２月１０日（日）［６５日間］
事業展開：（１）アートプロジェクト
（２）市民プロジェクト
（３）連携プロジェクト
会　　場：メイン会場　旧市民会館おおみや
その他会場　RaiBoC Hall(市民会館おおみや)、大宮盆栽美術館、漫画会館、岩槻人形博物館、鉄道博物館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館、さいたま市文化センター、その他市内各所
主　　催：さいたま国際芸術祭実行委員会
プロデューサー：芹沢高志（P3 art and environment 統括ディレクター）
ディレクター：現代アートチーム目［mé］
市民プロジェクトキュレーター：松永康、浅見俊哉、飯島浩二
デ ザ イ ナ ー：高田唯(Allright Graphics)

## Ⅱ．実行委員会

### 実行委員会

実行委員会総会の開催

実施計画や事業費などについて審議いただくため実行委員会総会を開催します。

≪開催時期(予定)≫
●第６回総会：2023 年７月４日　さいたま市文化センター4 階多目的ホール
議題：令和４年度決算等
●第７回総会：2024 年１月頃
議題：開催結果報告等
●第８回総会：2024 年３月頃
議題：令和５年度決算等

## Ⅲ．プロジェクト等の展開

メイン会場の旧市民会館おおみやにおいて、国内外で活躍するアーティストによる最先端の作品・プロジェクトを中心に構成する「アートプロジェクト」を展開するとともに、市内各所で展開する多様な「市民プロジェクト」や「連携プロジェクト」を有機的に結びつけ、さいたま市に包括的な祝祭空間を創出していきます。

<アートプロジェクト>

国内外で活躍するアーティストによる最先端の作品・プロジェクトの展開のみにとどまらない、アーティストと参加者、参加者と参加者、アーティストとアーティストとの交流の場として展開することで新たなさいたま文化を創造していくプロジェクトです。

芸術祭のテーマである「わたしたち」に基づき、現代美術、音楽、ダンス、演劇などといった多様なジャンルから現時点で 8 カ国 25 組 26 人のアーティストを招へいし展開することを想定します。また、市民団体や市内の小中高生が参加可能なプロジェクトも展開します。

<市民プロジェクト>

「共につくる、参加する」という市民参加型の芸術祭とするため、これまで文化芸術活動に取り組んできた方々も、これから取り組んでみようという方々にも、芸術祭では市民が主体となって参加できるバリエーションに富んだ機会と場を提供するものです。

また、市内には多くの芸術家の方が居住していることから、そうした方々にも参加していただけるような取組を実施します。

１．創発 in さいたま

さいたま市内には、都内で発表活動を行っている美術家がたくさん住んでいます。

彼らは、地元のギャラリーや美術館でも作品を発表しながら、近隣に住む美術家たちとの研鑽を行ってきました。

本企画では、こうした活動と市民活動を行う人々との協働を促すことで、地域文化に新たな「創発」（＊）が起こることを期待します。

＊創発：部分の性質の単純な総和にとどまらない特性が、全体として現れること

| プログラム | 概要 |
|---|---|
| 展覧会プログラム | 浦和駅西口周辺にあるギャラリーが、それぞれ推薦作家を紹介する「ギャラリー・セレクション」、桜区の秋ヶ瀬公園に野外美術作品を設置する「国際野外の表現展」、埼玉大学・東京藝術大学と協働で展開する埼大・藝大協働プロジェクト等のプログラムを実施します。 |
| 市民企画事業（芸術祭事業） | 小学校の児童生徒が地域をテーマに制作した作品で街をかざりつけする「街をかざるエクストラ」、さいたま新都心駅西側に点在するパブリックアート作品の価値を再評価し地域のクオリティアップを目指す「さいたま新都心のパブリックアート等のプログラムを実施します。 |
| 市民企画事業（先行事業） | ・SHADOW TREASURE HUNTING-Shunya ASAMI×さいたま de 海賊<br>時期：令和 5 年 3 月 11 日（土）～3 月 19 日（日）<br>会場：STUDIO・45<br>内容：写真作家：浅見俊哉と市民有志の団体である「さいたま de 海賊」が手をつなぎ、参加者の「たからもの」を影の写真にします。<br>・街かざるエクストラ　SACP アウトリーチ展<br>‐わたしがわたしを見つける日‐@ヒアシンスハウス<br>時期：令和 5 年 3 月 12 日（日）～3 月 19 日（日）<br>会場：別所沼公園　ヒアシンスハウス及びその周辺<br>内容：詩人立原道造が創作のための空間として構想し、その死後市民有志 |

| | |
|---|---|
| | によって建てられた建物「ヒアシンスハウス」を手掛かりに、埼玉大学附属中学校生徒の生徒がいま求めている居場所をテーマに創作活動に取り組んだ成果を展示します。<br>・さいたまアート・ハブズ計画<br>時期：令和５年３月<br>内容：埼玉新聞社と協働し、開催中の事業について、市民目線で取材・発信するとともに、発信した情報を継続的に蓄積し、アートのハブ（情報拠点） 形成を目指していきます。 |

２．さいたまアーツセンタープロジェクト２０２３＊

「さいたま国際芸術祭２０２０」を契機に、日常生活の中でアートに参加する機会を充実させるため継続している事業であり、芸術祭会期前より先行プロジェクトとして実施します。

５つのプログラムを展開し、「ウィークデーアーツプログラム」では、「深呼吸する水曜日」「金曜日の芸術学校」「土曜アーツチャレンジ」など、様々なアートに参加するプログラムを令和５年８月から毎月提供します。

また、大宮図書館の氷川の杜ひろばにおいて、作品展示とともに、プロジェクトの情報や、これまでの活動のアーカイブを展示し、長期のプログラムスケジュール・広域に渡るアートフィールドの情報を得る拠点として活用します。また、公共空間を生かし、ワークショップやレクチャー等のプログラムを行うことで、アートに参加する、関心・興味を高める機会を創造します。

| プログラム | 概要 |
|---|---|
| ウィークデーアーツプログラム | 水曜日・金曜日・土曜日に様々なジャンルのプログラムを連続的に展開することでアートに参加する習慣を生み出すプログラムです。<br>現代を共に生きるさいたまゆかりの作家や、地域でアートの場所をつくっている様々な表現者との出会いを通して、日常へのリアリティを高め、生活を豊かに彩っていくことを創造します。 |
| スペシャルプログラム | さいたまの地域の持つポテンシャルを生かし、その場のロケーションや人と人との関わりを通して、参加者と長期的な制作の時間を生み出すプログラムです。<br>アートを通して表現される土地や人の魅力を体感し、既存のプログラムの枠を超えて、多層的な創造の時間をつくります。<br>2023 年は、「アーツセンター」の機能として、作家との長期的な関わりを通して作品を制作していく「アーツスクールプログラム」の要素を持ったプログラムや、芸術祭やアートの場づくりについて意見交換するシンポジウム等を展開する予定です。 |
| アウトリーチプログラム | 小・中学校に SACP 招聘作家を派遣し、児童の文化芸術の理解と関心を高めるプログラムを実施します。<br>様々な専門分野の人たちとアイデアを出し合い豊かなアートの場をつくるプログラムとして実施します。 |
| 展覧会プログラム | さいたまゆかりの作家や、さいたまの土地で豊かな表現を展開できる市内のアトリエや店舗等を会場とし作家の展覧会を市内各所で開催します。<br>SACP がこれまでプロジェクトを通して培ってきた人や土地との繋がりを通して、作家の表現を最大限味わえるロケーションで作品を展示し、様々な地域を巡る「アーツセンターキャラバンプログラム」の要素を兼ねて実施します。 |
| メディアプログラム | 実施したプロジェクトを様々なメディアを使用して伝えるプログラムを |

| | |
|---|---|
| | 実施します。<br>SACP がこれまで実施してきたプログラムの記録集（ドキュメント）の制作を芸術祭サポーターと連携して行うとともに、プログラムを身近に感じられる音声メディアの制作を行うプログラムを展開します。<br>2023 年は、招聘作家による表現の場として活用したり、芸術祭を多角的に楽しんだりできるメディアをつくります。 |

３．アーツさいたま・きたまち

北区・大宮区・岩槻区の商業施設や文化施設を拠点として結ぶルートに、アートカー・自転車がキャラバン走行します。芸術祭会期中に実施し、不特定多数の観客が偶発的なアート鑑賞を行うことにより、芸術祭の機運上昇にも寄与します。

また、拠点とする文化施設では、現代アートのスパイスを加えた作品を展示する味変企画も実施します。

さらに、芸術祭を契機に、市内におけるアーティスト・イン・レジデンス事業を行います。小規模で持続可能なレジデンスプログラムを想定し、芸術祭会期中の約 4 週間、アーティストの滞在場所を確保した上で、制作した作品は市内施設にて展示予定です。

| プログラム | 概要 |
|---|---|
| キャラバン<br>走行事業 | サン・テグジュペリ著“星の王子さま”や、松本零士著“銀河鉄道 999”に準え、さいたま市の 4 つの文化施設を特色ある文化の星と捉えて、“導線”をキーワードに各文化施設間を帯状に結ぶルートを作成し、始発着地であるステラタウン大宮までを旅するアートツアー。CARt-SAITAMA 2023 は自動車を用いた作品を芸術祭の宣伝カーとして各会場間をキャラバン走行し、走行中の公道では全くアートに興味のない方々にも偶発的アート鑑賞を誘います。また、ART-Chari では生活に身近な自転車を用いてガイドアーティストが各施設へと引率するアートツアーを行い、国際芸術祭を周知すると同時に気運を高めていきます。<br>【CARt-SAITAMA 2023：10 月 7 日（土）、8 日（日）、9 日（祝）を予定】<br>【ART-Chari 2023：10 月 14 日（土）、15 日（日）、21 日（土）、22 日（日）を予定】 |
| 文化施設<br>味変企画 | 本市における地域の特色ある文化施設である大宮盆栽美術館、漫画会館、岩槻人形博物館、鉄道博物館の 4 文化施設において、各文化施設の特色をテーマにした現代アート作品を展示することで、非日常的なひと味違った魅力を再発見していきます。<br>【大宮盆栽美術館、漫画会館、鉄道博物館、岩槻人形博物館：10 月 7 日（土）～25 日（水）を予定】 |
| CAJ-AIR | さいたまトリエンナーレ２０１６にて岩槻区で展開した一連の アーティスト・イン・レジデンス（AIR）プロジェクトのレガシー継承として、岩槻区の多目的アートスペース「スペース 845」と西区にリニューアル予定の「CAJ-AIR」の 2 施設をアーティスト・イン・レジデンス施設として活用します。<br>岩槻プログラムでは、海外アーティストを招聘し、さいたま市出身アーティストと衣食住を共にしながら岩槻人形博物館にて、その成果発表を行います。また、西区プログラムでは、「キャラバン走行事業や文化施設　味変企画」に参加するアーティストたちが宿泊し、作品メンテナンスや会議等を行っていきます。<br>【さいたまレジデンスプログラム：①岩槻プログラム：11 月 8 日（水）～27 日（月）約 3 週間、②年 10 月 7 日（土）～29 日（日）の週末を中心とした任意の日程を予定】 |

４．公募プログラム

「さいたま国際芸術祭」の「共につくる、参加する」というコンセプトのもと、アーツカウンシルさいたまと連携し、市内で展開される文化芸術活動と共に芸術祭をつくりあげるためのプログラムです。

≪プログラム概要≫

（１）採択事業内での、さいたま国際芸術祭２０２３「市民プロジェクト・ロゴ」の使用許可

（２）採択事業への事業費の交付

（ 事業費のコース Ａ：１０万円／Ｂ：３０～５０万円／Ｃ：１００～３００万円 ）

（３）採択事業の広報活動の協力（ 例：公式 WEB サイト・SNS・市報さいたま等への掲載 ）

（４）募集期間

令和５年２月７日（火）～令和５年３月７日（火）

申込件数 54 件（R5.3.14 現在）※審査期間：令和５年３月～6 月

（５）対象事業者決定

令和５年６月頃

（６）制作開始

令和５年６月～9 月

（７）事業展開

令和５年 10 月７日（土）～12 月 10 日（日）

５．応援プロジェクト

開催に賛同する様々な催しに対し、「応援プロジェクト」の認証を付与します。芸術祭と認証事業が広報活動を相互に協力して行うことで、両事業の認知度向上と機運醸成を図るものです。

≪内容≫

(1) 応援プロジェクト認証事業での「応援プロジェクトタグ付きロゴ」の使用許可

(2) 広報活動の協力（例：公式ウェブサイト・SNS 掲載、市内文化施設へのチラシ配布　等）

(3) 募集期間：令和５年２月１日（水）～令和５年 11 月 30 日（木）

(4) 認証件数　4 件（R5.3.14 現在）

We support
Art Saitama 2023

<連携プロジェクト>

国際芸術祭を市全体で盛り上げていくために、「盆栽」、「漫画」、「人形」、「鉄道」をはじめとする本市の魅力ある文化芸術資源を活用したプロジェクトを展開するほか、市内に所在する多彩な文化施設や文化芸術団体、開催エリア周辺の商店街、実行委員会構成員、企業など多様な分野と共同でプロジェクトを企画、実施することでさいたま文化の発信、まちの活性化を図ります。

| 事業名 | 連携先 |
|---|---|
| 文化施設連携事業 | 大宮盆栽美術館、漫画会館、岩槻人形博物館、鉄道博物館、RaiBoC Hall(市民会館おおみや)、宇宙劇場、彩の国さいたま芸術劇場、青少年宇宙科学館、埼玉会館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館 |
| まちなか活性化事業 | 埼玉大学、さいたま市美術家協会、さいたま市文化協会、公益財団法人埼玉県産業文化センター、東日本電信電話株式会社埼玉事業部、株式会社埼玉りそな銀行、株式会社武蔵野銀行、さいたま市内商店街、公益財団法人さいたま市文化振興事業団 |
| 庁内連携事業 | 庁内各局・区役所、教育委員会等 |

<旧市民会館おおみやの会場整備>
　芸術祭のメイン会場として、作品の展示空間を整備します。

<その他>
　市民参加型の国際芸術祭として、庁内関係課と連携を図り、より多くの市民が参加できる事業を展開します。

## Ⅳ．広報・ＰＲ活動の展開

これまでにない独自の芸術祭であることを強く発信し、市のイメージ向上に寄与します。
統一したビジュアルイメージを保ち、さいたま国際芸術祭としてのイメージを確立します。
本番直前の情報発信の山場に向けて、開催への期待感を高めます。

<公式 WEB サイト>

・展開内容

７月実施予定の記者発表会に合わせて、参加アーティストやチケット情報などを単純明快に、観客目線で紹介していきます。

・スケジュール

７月実施予定の記者発表会に合わせて開設できるよう、令和４年度中に固めた構成要素を基に設計・開発を実施します。

<広報物による広報>

・展開内容

メインエリアとなるさいたま新都心駅や大宮駅周辺を中心としたポスター貼りやバナー掲出、本番用チラシ配架等によるシティドレッシングや市報さいたまと併せて本番用チラシの全戸配布を実施し、市内での機運を高めていきます。

・スケジュール

シティドレッシングについては、公式 WEB サイトと同様に７月実施予定の記者発表会に合わせて開始していき、全戸配布用の本番用チラシについては市報さいたま９ 月号との併配を実施します。

<広報事務局>

・展開内容

公式 WEB サイト開設など芸術祭情報の公開が本格化する時期より、メディア対応窓口や新規メディア開拓の役割を担うものとして広報事務局を設置し、芸術祭の認知を拡大していきます。

・スケジュール

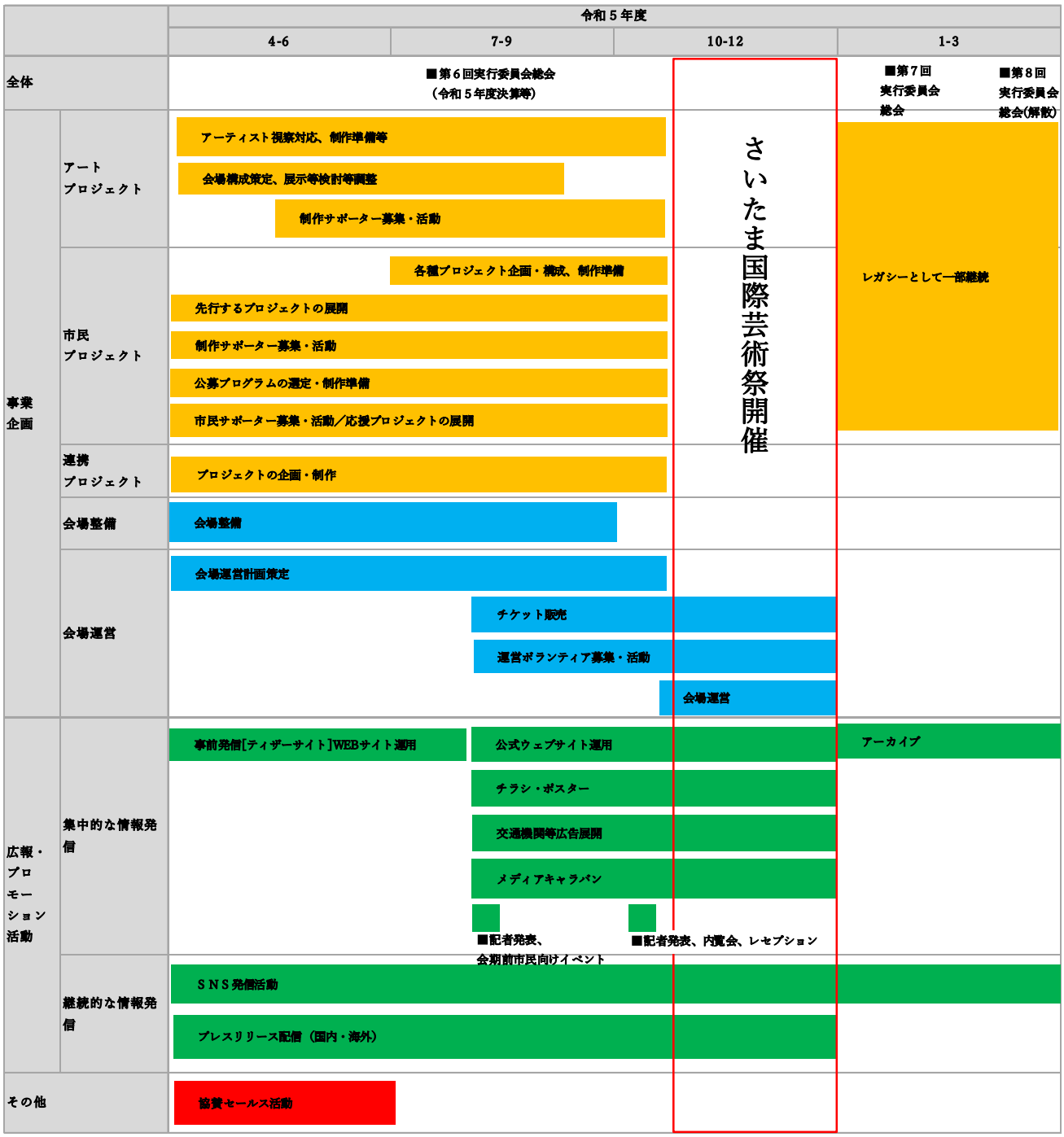
メディア対応が増大する７月実施予定の記者発表会に合わせて、６月より設置を予定しており、メディア対応として取材撮影の依頼、広報素材の提供、記事校正の受付や新規メディアへのアプローチに加えて、事務局プレスリリースの監修や配信を芸術祭開催期間中も含めて実施していきます。

<広報イベント>※企画検討中であり、概要については、変更の可能性あり。

| イベント名 | 概要 |
|---|---|
| 記者発表会① | ７月メイン会場周辺会場において、メディアを対象とした記者発表会を実施し、参加アーティストや芸術祭の開催概要を発表します。 |
| 記者発表会② | 開催前日の 10 月６日（金）にメイン会場において、メディアを対象とした記者発表会を実施し、芸術祭の企画や作品等を発表します。 |
| プレス内覧会 | 開催前日の 10 月６日（金）にメイン会場において、報道関係者やアート関係者等を対象に、作品の撮影やアーティストへの取材が可能な内覧会を実施します。 |
| レセプション | 開催前日の 10 月６日（金）にメイン会場周辺会場において、市内の関係者や参加アーティスト、他の芸術祭の関係者等を招いてレセプションを開催します。 |
| 会期前市民向けイベント | 会期前に市内の商業施設等において、芸術祭開催までの機運の醸成を目的とした市民向けイベントを開催します。 |

≪スケジュール≫

■令和５年度年度事業計画(案)



議案第２号

さいたま国際芸術祭実行委員会

# 令和５年度収入支出予算（案）

【収入の部】令和５年度　（単位：千円）

| 区　分 | 予算額 | 説　明 |
|---|---|---|
| さいたま市負担金 | 445,333 | |
| 事業収入 | 1 | ○チケット・グッズ収入　など |
| 協賛・助成金 | 1 | |
| その他雑入 | 1 | ○受取利息など |
| 合　計 | 445,336 | |

【支出の部】令和５年度　（単位：千円）

| 区　分 | 予算額 | 説　明 |
|---|---|---|
| 事業企画費 | 369,961 | ○アートプロジェクト、市民プロジェクト及び連携プロジェクトの企画・構成並びに各種プロジェクト制作等に係る経費<br>○会場の整備や運営に係る経費 |
| 広報関係費 | 73,228 | ○広報イベントや公式ウェブサイト制作・運用、広報物制作、パブリシティ・プロモーション活動に係る経費 |
| 委員会運営費 | 165 | ○実行委員会総会の開催に伴う会場使用料や委員旅費など |
| 事務局運営費 | 1,982 | ○通信費、消耗品費など |
| 合　計 | 445,336 | |

第５回総会

資料１

# さいたま国際芸術祭実行委員会　委員名簿

| 職名 | | | 氏名 |
|---|---|---|---|
| 顧問 | | 埼玉県知事 | 大野　元裕 |
| 委員 | 会長 | さいたま市長 | 清水　勇人 |
| | 副会長 | さいたま市議会議長 | 中島　隆一 |
| | | さいたま商工会議所会頭 | 池田　一義 |
| | | 公益社団法人さいたま観光国際協会会長 | 筑波　伸夫 |
| | | さいたま市副市長 | 髙橋　篤 |
| | | さいたま市教育長 | 細田　眞由美 |
| | | 公益財団法人さいたま市文化振興事業団理事長 | 柳沢　幸一 |
| | | 埼玉県立近代美術館館長 | 建畠　哲 |
| | | 独立行政法人国際交流基金理事 | 柄　博子 |
| | | 公益財団法人東日本鉄道文化財団鉄道博物館館長 | 大場　喜幸 |
| | | 大学コンソーシアムさいたま会長　国際学院埼玉短期大学　理事長・学長 | 大野　博之 |
| | | さいたま市議会文化・国際議員連盟会長 | 渋谷　佳孝 |
| | | さいたま市自治会連合会会長 | 松本　敏雄 |
| | | さいたま市商店会連合会副会長 | 日野　俊彦 |
| | | 公益社団法人埼玉中央青年会議所理事長 | 望月　諭 |
| | | 株式会社埼玉りそな銀行代表取締役社長 | 福岡　聡 |
| | | 株式会社武蔵野銀行取締役頭取 | 長堀　和正 |
| | | 日本郵便株式会社大宮浅間郵便局局長 | 新井　敏史 |
| | | 東日本電信電話株式会社執行役員埼玉事業部長 | 市川　泰吾 |
| | | 東日本旅客鉄道株式会社執行役員大宮支社長 | 森　明 |
| | | 東武鉄道株式会社取締役常務執行役員鉄道事業本部長 | 鈴木　孝郎 |
| | | 埼玉高速鉄道株式会社代表取締役社長 | 荻野　洋 |
| | | 凸版印刷株式会社代表取締役会長 | 金子　眞吾 |
| | | 日本放送協会さいたま放送局局長 | 小野　修作 |
| | | 株式会社テレビ埼玉代表取締役社長 | 川原　泰博 |
| | | 株式会社埼玉新聞社代表取締役社長 | 関根　正昌 |
| | | 株式会社FM　NACK5 代表取締役社長 | 片岡　尚 |
| | | 株式会社ジェイコム埼玉・東日本代表取締役社長 | 平岩　光現 |
| | | 一般社団法人埼玉県バス協会会長 | 金井　応季 |
| | | 一般社団法人埼玉県乗用自動車協会会長 | 小谷　彰治 |
| | | さいたま市文化協会理事長 | 鶴見　清一 |
| | | 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団理事長 | 加藤　容一 |
| | | 公益財団法人埼玉県産業文化センター理事長 | 加藤　喜久雄 |
| | | 埼玉県県民生活部長 | 真砂　和敏 |
| | | さいたま市大宮盆栽美術館館長 | 老川　慶喜 |
| | | さいたま市岩槻人形博物館館長 | 田中　裕子 |
| | | さいたま市経済局長 | 矢口　敦彦 |
| | 監事 | 税理士法人レヴ・ナス代表社員税理士 | 橋本　真一 |
| | | さいたま市会計管理者 | 池田　一江 |

| | | |
|---|---|---|
| ディレクター | | 現代アートチーム目［mé］ |
| プロデューサー | | 芹沢　高志 |

（敬称略）

前回からの変更箇所